

高等部Dスタディ（花グループ）学習指導案

日 時：令和3年11月5日（金）9：30～10：20

場 所：多目的ホール2

生 徒：男子4名

指導者：後松慎太郎（T1）、田中智佳（T2）

1 単元名 通町商店街のCMを制作しよう（ひらのや書店編）～相手に伝わる動画制作とは～

2 単元目標

- (1) 地域の方の要望を聞き取り、内容を絞って伝えることの大切さを理解する。(知・技)
- (2) CMの制作に向けて計画を立てたり、制作する内容に応じて自分の意見や考えを簡潔に伝えたりする。(思・判・表)
- (3) 友達の意見や地域の方の思いを受け入れ、動画を制作したり、改善したりしようとする。(学・人)

3 生徒と単元

(1) 生徒について

本グループは、3年生男子4名で構成している。4名全員が作業学習でサービス班に所属したことがあり、校外での清掃活動で通町商店街と関わった経験がある。

高等部に入学し、一人一台自分の学習用タブレット端末（iPad）を持っている。学習の中では、文字の打ち込み、インターネット検索、プレゼンテーションアプリを用いたスライド作りなど、日頃からタブレット端末を用いた学習に取り組んでいる。コミュニケーション面については、基本的な関わりができる一方で、相手と関わりたい気持ちや自分の思いを優先して話すことが見られる。思考については、やや固定的な思考や偏りのある考え方、初めてのことに對して消極的な態度や、自分の考えで完結し、他者の意見を受け入れることが難しい面が見られる。しかし、興味のあることに結び付けることで考えを深めたり、アイデアを広げたりすることができる生徒たちである。学びの特性から、本グループは、「意味を考えながら学ぶ」「理屈を考えながら学ぶ」「写真や図を使って学ぶ」を主な学びのスタイルとして取り入れている。資料1・年間指導計画参照

(2) 単元について 資料2 ㊦：自己理解 ㊧：自己選択・自己決定 ㊨：実行力 ㊩：情報活用力 ㊪：社会性

本単元では、これまで関わりをもったことがある店舗のCM制作をテーマに、自分たちで学習の計画を立て、実践する中で、相手の気持ちを考えたり、相手に伝わるポイントを学んだりする。

本グループは、年間を通して「相手に伝わる伝え方」をテーマに学習に取り組んでおり、これまで、特定の相手への自己紹介、友達や教育実習生への本の紹介などを題材に学習してきた。また、単元を通して、①コンセプトを決める②計画を立てる③実践する④意見をもらう⑤改善をする⑥再度実践をするという展開を繰り返してきた。自己紹介や本の紹介の単元では、一人一人が自分の思いを表現できるように各々の紹介を行う形態を取ったり㊦、学習の際には、言語で伝えるだけではなく、生徒各自のタブレット端末のアプリケーションソフト「Keynote」を用いて、相手に視覚的に伝わる伝え方を考えたりして学習してきた㊧。加えて、今年度始めに行った学びたいことアンケートでは、「動画編集」「校外での学習」「アプリの操作方法」などが挙げられた㊨。

本単元では、自分たちで動画編集のコンセプトや計画を話し合いながら決めたり、友達と一緒に動画を制作したりと協働する場面を多く設定する㊩。また、地域の方との関わりや相手の要望を受け取る機会を学習の中に設定する㊪。これらの学習を行うことで、仲間とともに筋道を立てながら計画的に物事を進める経験や他者の意見を受け入れながら改善する姿が期待できる㊩。また、店舗のCM制作は、自分の考えを分かりやすく伝えるだけではなく、店舗の要望を受け取り改善に生かすことで、今まで以上に相手の気持ちを考える機会が設定できる。そして、地域の中での学習に取り組むことで、生徒の地域への興味・関心や関わりを広げたり、自分の学習への自信に結び付いたりする㊪一助となり、生涯学習力が高まると考える。

以上のことから、本単元を設定した。

(3) 指導について 資料3 生涯学習力を高める授業づくりのポイント（かかわる・きづく・やってみる）から記載する

かかわる	<ul style="list-style-type: none">・これまでの学習を振り返り、学習のゴールに向けて学習計画を立てたり、友達同士で話し合いながらCM制作したりする機会を設ける。・地域の場所に行きインタビューや動画や写真を撮影する機会を設ける。
------	--

きづく	<ul style="list-style-type: none"> ・動画編集のイメージやアイデアをもてるように単元の序盤にアプリを十分に操作する時間を設ける。 ・CM制作のコンセプトを決める際に、店舗のよさや店舗が地域で果たす役割に着目できるように発問する。 ・計画や改善をする際には、思考の展開が視覚化できるようにワークシートを用意する。
やってみる	<ul style="list-style-type: none"> ・前単元の学びを生かせるように、計画→作成→改善の流れのある単元を設定したり、これまで学んだ相手に伝わるポイントについて問い掛けたりする。 ・動画編集のアイデアで困ったときには、単元の初めに行う「InShot」の操作方法を振り返る時間を設ける。

4 単元計画（総時間数 19 時間）

学習活動	ねらい
○学習の計画立案（1 時間） ・夏休みの学習を紹介し合う。 ・何のためにCMを制作するのか知る。 ・学習の計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が気に入ったCM（夏休みの課題）について、友達に簡潔に説明する。 ・学習の目的が分かり、自分なりの筋道を考え、友達に伝える。
○動画編集アプリの操作方法（2 時間） ・InShot について知る。 ・操作方法（動画等の挿入、テキスト、音声、画面切替、PinP、再生速度等）を知る。 ・演習を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・動画編集アプリの操作方法を知る。 ・自分が覚えたアプリの操作方法を用いて、簡単な動画編集を行う。
○CM制作の計画立案（4 時間） ・コンセプトを決める（相手に伝わる動画とは？）。 ・計画を立てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・CM制作のコンセプトやひらのや書店のよさや魅力について考え、友達に伝える。 ・CMに入れる内容や構成について、友達と話し合っ
○CM素材の撮影（2 時間） ・CM制作の許可を得る。 ・インタビュー、写真等の撮影をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらのや書店にCM制作の趣旨が伝わるように話す。 ・インタビューの内容や知りたい情報を簡潔に伝える。
○動画の編集と改善（6 時間 本時 5/6 時間） ・動画を編集する。 ・動画を提示し、要望を聞く。 ・要望を基に動画の改善をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・撮影した素材を使い、動画等の挿入、テキスト、音声、画面切替、PinP、再生速度などを用いて動画を編集する。 ・友達の意見やひらのや書店の要望を基に、動画の改善ポイントを話し合い、動画の改善に生かす。
○学習のまとめ（4 時間） ・動画を届け、要望を聞く。 ・要望を基に動画を改善し、ひらのや書店に提示する。 ・学習を振り返る（相手に伝わる動画とは？）。	<ul style="list-style-type: none"> ・動画改善のポイントを簡潔に伝える。 ・ひらのや書店の要望を基に、動画の改善ポイントを話し合い、再度動画改善に生かす。 ・感想や意図が伝わった箇所を整理する。 ・相手に伝わる動画についてポイントをまとめる。

5 本時の計画（19 時中の 13 時）

（1）本時のねらい

- ・ひらのや書店の要望を聞き、動画の改善するポイントを友達と決める。

（2）生徒のねらいと手立て

No	氏名・性別	個別のねらい	手立て
1	A (男)	30 秒の時間の配分について自分の考えを伝える。(自)	ワークシートに動画の構成を記入できる欄を設ける。
2	B (男)	要望動画から相手の気持ちを理解し、動画で用いる文字を決める。(情)	文字の必要な部分を絞れるように、動画に入っていたテロップをキーワードで表すように言葉を掛ける。
3	C (男)	落ち着いた雰囲気合う曲や色について、自分の考えを伝える。(自)	落ち着いた雰囲気の曲について、テンポや音の高低について質問をする。
4	D (男)	動画に入れる文字の出し方や色について自分の考えを伝える。(自)	文字の効果や色について複数の選択肢を提示する。

(理)：自己理解 (自)：自己選択・自己決定 (実)：実行力 (情)：情報活用力 (社)：社会性 資料 2

(3) 学習過程

時間	学習活動	教師の働き掛け・留意点
3分	1 前時を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習活動につながるように、学習予定表を提示しながら説明する。
7分	2 本時のめあてを知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;"> <めあて>友達と意見を出し合いながら、動画の改善内容を決める。 </div> 3 作成した動画(2本)とひらのや書店の要望を見る。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達と協働して動画の内容を改善することに気付けるように「改善するのは誰？」などと問い掛けながら、めあてを提示する。 ・相手の気持ちや要望に応えるCMを制作できるように、動画改善のポイントを図示しながら説明する。 ・作成した動画の内容を思い出せるように、動画を1本ずつ区切って視聴する。また、1本ずつどのようなコンセプトで作成したか問い掛ける。 ・ひらのや書店からの要望の動画を見る際に、内容を覚えられるようにワークシートを用意する。
32分	4 動画の改善内容について話し合う。 グループ1：B、C (T1) グループ2：A、D (T2) (1) グループでの話し合い (2) 他グループに内容紹介 (3) グループでの確認 5 改善内容を元に、動画を編集する。	<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いのグループは、主に動画を作成(タブレット端末使用)した生徒が別々のグループとなるよう配慮する。 ・改善内容を考える際に、要望を自分で確認できるように各自のタブレット端末に要望の動画を送る。 ・動画の時間の使い方を具体的にイメージできるようにワークシートに時間、音楽、文字等を書き込める欄を設ける。 (A) ・必要な部分を絞れるように、動画に入っていたテロップをキーワードで表すように言葉を掛ける。 (B) ・選曲で自分の好きな曲に偏る場合には、落ち着いた雰囲気曲についてイメージを膨らませるように、テンポや音の高低について質問をする。 (C) ・明るい雰囲気についてイメージを膨らませるように、動画に入れる文字の効果や色について複数の選択肢を提示する。 (D) ・他グループが話し合った内容とひらのや書店が話した内容が合致しているか分かるように、ワークシートにチェックする欄を設ける。 ・動画編集の進捗が分かるように、進めた箇所についてはワークシートに印を付けるように言葉を掛ける。
8分	6 本時の学習を振り返る。 (1) 改善した内容を確認する。 (2) 今後の学習予定を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> ・互いの学びを共有できるように、編集途中の動画をスクリーンに映し見せ合う場を設ける。 ・CM制作で心掛けたポイントについて質問する。

(4) 評価

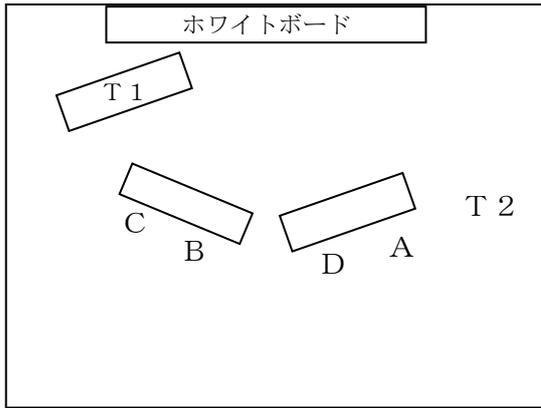
<生徒の評価>

- ・自分の考えを話したり、ペアの友達の意見やひらのや書店の要望に応えたりして、改善のポイントを考へて動画の内容を改善することができたか。

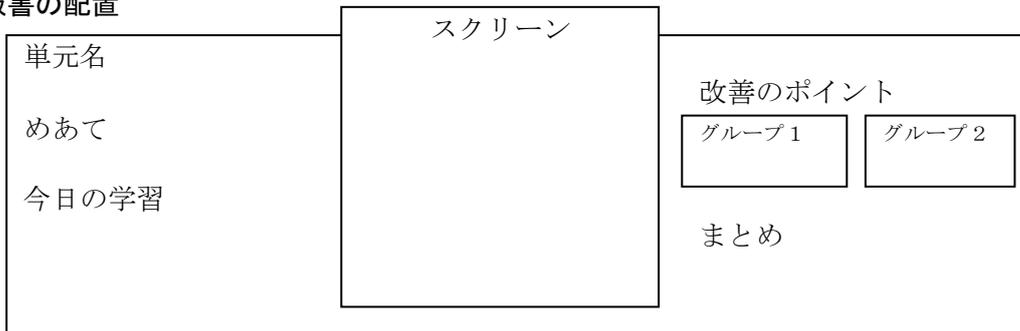
<教師の手立ての評価>

- ・動画の改善に向け、友達と協力して考えるための、教材や問い掛け、工夫がされていたか。
- ・学んだことを実感するための、場の設定や問い掛けがされていたか。

(5) 配置図



(6) 板書の配置

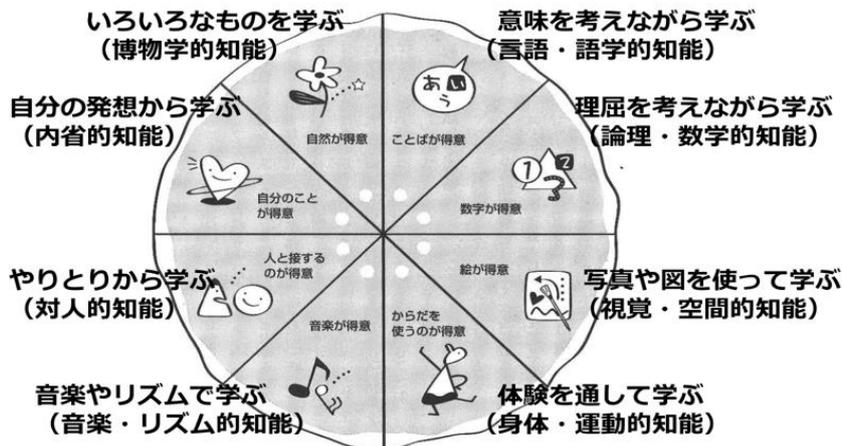


(7) 資料

資料 1

MIについて

MI (Multiple Intelligences) は、多重知能やマルチ知能と訳される。アメリカの心理学者ハワード・ガードナーが提唱した理論であり、知能はIQだけではなく、人間の行動、思考、感情を脳の働きを基に、8つに分類できると唱えている。本校では児童生徒の学び方は多様であり、個々のよさを発揮しながら学習を行うことが主体的な学びにつながると考え、本理論を参考にした授業づくりを行っている。MIの分類を児童生徒の得意な「学びのスタイル」と捉え、授業の手立てや自己理解につなげることを目指している。



本田恵子, 2006年, 脳科学を活かした授業をつくるー子どもが生き生きと学ぶために
トーマス・アームストロング, 2002年, 「マルチ能力」が育む子どもの生きる力 より

資料2

Dスタディで高まるであろう生涯学習力について



資料3

生涯学習力を高める授業づくりのポイント

